

令和7年度第3回中部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会

令和7年11月14日（金）、標記研修会を開催しました。

「みんなで伴走し、育てよう！鳥取の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」と題し、東海大学 賀来生志子准教授に御講義いただき、自身の保育・教育を振り返りながら協議を行いました。小学校のスタートカリキュラムにおける具体的な事例を通して、幼児期の学びが小学校以降の学びにつながっていることや主体性を引き出す関わりなど多くの学びを得ることができました。

講義や協議を通して、子ども主体の学びの実現と架け橋期の教育の充実の重要性、そして全職員での共通理解をもとに幼児教育施設と小学校が協働しながら取り組んでいくことの大切さを感じることができた研修会となりました。



以下、参加者の振り返りをいくつか紹介します。

- ◆子どもにとって夢中になれる体験を通して感じられる「手応え感覚」や達成感、充実感が学びに向かう力を育むということを改めて学んだ。
- ◆その子にとって「価値ある体験とは何か」を考え、肯定的な子ども観を大切にした保育、子どもが自ら気付いて考えることのできる関わりを大切にていきたい。
- ◆園内での職員の共通理解だけでなく、様々な関係機関と相互理解を図ることができるよう、対話的な学びを続けていけるよう努力していきたい。
- ◆保育園や子ども園で培ってきた好奇心への行動力を活かしていけるように声をかけたり見守ったりしていくことが小学校では必要だと思った。それは、1年生担任だけで行うのではなく、学校全体で共有し、取り組んでいくことが大切だと感じた。